

●午後の一般講演

午後の最初のセッションでは、A 会場で座長を務めさせていただきました。最初は静岡大学の関谷和之先生による「Mathematical Properties of Least Absolute Value Estimation with Serial Correlation」でした。最小絶対値法を使い時系列データについて誤差の少ない推定を行う内容で、活発な質疑応答がなされました。次に「配合問題のエクセル・ソルバーによる解法について—OR リテラシーの普及事例（第1報）—」と題してオーアールとく塾の権藤元氏による発表がありました。筆者はソルバーを使ったことがなく、知人に聞いたところでは、ソルバーはかなり難解だそうで、それをわかりやすく使えるようにした事例報告は意義深いとのことでした。セッションの最後は「Solving Linear Integer Optimization Problems by Linear Programming Cooperated with Constraint Programming」という題でアイログ株式会社のチェン・ユウ氏に発表していただきました。制約プログラミングと線形計画の結合を試みるもので、企業の方などから活発な質問がありました。

さて、その次の最後のセッションでは、F 会場で自分の発表「必要不可欠ではない需要に対する競合配置問題」がありました。われながら中途半端な内容で忸怩たる思いにかられましたが、なんとか終わることが

できました。同じセッションでは、次に大阪府立大学の寺岡先生による「配置の経営戦略」と題する発表があり、明快に整理された内容が非常に参考になりました。

ともあれ、春期発表会は予定通り 3 時 40 分に終了。天候にもめぐまれ、問題もなく、大成功と言って良いかと思います。

●おわりに

末筆ながら、協賛企業の方々、会場をご提供いただいた大阪国際大学の方々に感謝したいと思います。特に、昨今の苦しい経済情勢の中で学会にご協力いただいている企業の方々には心よりお礼申し上げます。また、学会本部の方々、関西支部実行委員の方々、そして運営にご協力いただいた学生諸君、本当にお疲れさまでした。特に庶務として様々なお仕事をこなされていた大阪大学教授の石井博昭先生や神戸学院大学教授の塩出省吾先生には、たまたまお会いする機会が多く、そのお姿を見るにつけ、ご多忙の合間を縫ってひとつの研究集会を成功させることの大変さを感じた次第です。もちろん、他の実行委員の方々も、それぞれに大変でしたでしょう。ひとりひとりお名前を挙げるスペースがないのが大変残念ですが、改めて感謝とねぎらいの意を表したいと思います。お疲れさまでした。

平成 11 年度春季研究発表会見学会ルポ

寺岡 義伸 (大阪府立大学)

平成 11 年度春季研究発表会の見学会は 3 月 25 日、全国的に大学関係の卒業式の最も多い日であったにもかかわらず、17 名の参加者を得て楽しく有意義に催された。そのメインテーマは、阪急電鉄(株)の御好意による、阪急電鉄 TTC 装置 (列車運行制御装置) の現場と宝塚大劇場の防災および空調施設の見学ということであったが、現実に働いている施設とそこで管理しておられる担当者を拜見でき、見学者一同「こんな所まで見せていただいて…」と大感激であった。

TTC 装置は全国でもほんの数社しか導入されておらず、阪急電鉄(株)が世界に誇る施設の一つであった。

朝 9 時阪急グループ本社に集合し簡単な説明を受けた後、17 名が 2 つのグループに分かれて阪急梅田駅内にある TTC ルームに入った。現在動いているすべての電車の運行状況が大きな運行系統図上に表される形になっており、主要駅における電車の状態も画面上に写し出されていた。丁度見学中、外部から TTC ルームに電話が入り、何かの指示を求める光景にでくわした。テキパキと指示を与えて対応する担当者その後姿に、日常何も考えずに安全に電車を利用できる有難さを感じ、邪魔にならないように静かに見学をと、一同気を引き締めた一幕であっ

た。

梅田（大阪）から宝塚へは阪急電車で移動し、大劇場の食堂で昼食をとった。宝塚大劇場の防災施設や空調施設は、はなやかに美しい大劇場の奈落にあった。3月は「ウエストサイド・ストーリー」を上演中であったが、明るい歌や音楽、そしてテンポの早い踊りを楽しんでいるその下でディスプレイや計器を眺めながら、時には客席を覗いたりしながら、観客の安全と快適さを守ってくれる人たちの仕事ぶりを目の当たりに見せていただいた。

見学会は、上記の2施設の見学で終る予定であったが、予期しなかったアトラクションが加わった。朝からずっと案内役を務めて下さっていた阪急電鉄㈱の植松調査役の御好意で、上演中の少女歌劇（星組公演の「ウエストサイドストーリー」）のフィナーレの部分15分間を全員A席から観劇させていただいたことと、隣のファミリーランドのなかの最新設備である“恐竜島への探検”を楽しませていただいたことである。トップスターを中心に美声と優雅な踊りで舞台をめぐる星組のスター達の全景を2階のA席から一望にできた時「ああしまった、双眼鏡を用意すべきであった。」と悔しい思いをしたものである。

解散は阪急宝塚駅でということであったが、大部分の参加者は阪急伊丹駅へ出ることとなった。阪神大震災で倒壊し、つい先達って再建された伊丹駅は交通の拠点になっているだけでなく、ショッピングセンターもあり、伊丹市民の憩いの場ともなっていた。市民へ

の貢献を通じて利潤を得るといふ、阪急電鉄㈱の創立期からの精神を目の前で見せていただいた。

今回の見学会の特徴は、バスを準備せず、移動には阪急電車を利用したことである。このため、行事の進行に時間的な遅れがほとんどなく計画外の行事まで楽しめる余裕が生じたこと、会席風の豪華な昼食を取ったにもかかわらず3,000円という格安の参加費で十分であったこと、たった17名の参加者であったにもかかわらず赤字の心配をしなくて済んだことなどのメリットが生じた。その上、企画のよさも加わって参加者全員が十分に満足できた見学会であった。

最後に、今回の見学会の成功は、実行委員を担当された流通科学大学の三道弘明先生・伊藤健先生と、阪急電鉄で活躍なさっておられる弟様で見学会の案内役を務めていただいた阪急電鉄㈱の植松調査役を紹介して下さった大阪国際大学の植松康祐先生の御努力の賜物である。心より感謝申し上げたい。同時に最近とみに参加者の減少してきた研究発表会での見学会で、委員となられた方の頭の痛さを心より同情する次第である。またこの見学会に限らずいろいろな催し物を行う時には、(実行可能性を別にして) アイディアを提供してくれる人、表舞台に立って顔と名前を売る人(私もその一人かも?) 等等、様々な役目の人が出てくるが、現場にいて着実に物事を実行してくれる人の存在無しには成功はありえない。この意味でも大阪国際大学の植松康祐先生を中心としたスタッフに心より感謝を申し上げる次第である。